

ロームシアター京都 2020年度 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2020年2月19日 報道発表資料

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

広報担当：松本、長野

電話：075-771-6051（9：00～17：00）FAX：075-746-3366

E-mail：press@rohmtheatrekyoto.jp <https://rohmtheatrekyoto.jp/>

ロームシアター京都 2020 年度 自主事業ラインアップ

演劇	市民寄席 3 ぐうたららばい vol.2 『海底歩行者』 能の世界へおこしやす ～京都薪能鑑賞のための公開講座～4 第71回京都薪能 能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～ パルコ・プロデュース 2020“ねずみの三銃士”第4回企画公演「獣道一直線!!!」5 レパートリーの創造 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』6
舞踊	名和晃平 × ダミアン・ジャレ 『PLANET<wanderer>』7 フランソワ・シェニヨール&ニノ・レーネ「不確かなロマンス -もう一人のオーランドー」8 ハンブルク・バレエ団「ベートーヴェン・プロジェクト」9
音楽	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020 モーツァルト：歌劇「魔笛」11 シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.4「雅楽」12 京都市交響楽団 × 石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」14 サンガツ「♪Music?」16 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX G. プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」17
総合	プレイ！シアター in Spring 2020 ステージプログラム ①ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業 『紙のサティさん』アトフリ・シアター from ポーランド ②ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業 『リトルトップ ～はじめてのサーカス～』 スターキャッチャーズ/スーパーファン from スコットランド ③『はじめての1歩』ミッドナイトシアターカンパニー from アイスランド 18 プレイ！シアター in Summer 2020 ステージプログラム 日・チェコ交流 100 周年 『怪傑ゾロ』アルファ人形劇場 from チェコ共和国19 プレイ！シアター in Summer 2020 オープンデイ ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”20 ①中川裕貴（京都）「アウト、セーフ、フレーム」 ②シラカン（神奈川）新作『タイトル未定』 ③スペースノットブランク（東京）新作公演 OKAZAKI PARK STAGE 202021 KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2020 ホリデー・パフォーマンス
学び / 参加	地域の課題を考えるプラットフォーム 22 劇場の学校プロジェクト ロームシアター京都 リサーチプログラム 23 機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」 「いま」を考えるトークシリーズ ロームシアター京都 アセンブリープログラムについて24

2020 年度自主事業の企画にあたって

この度ロームシアター京都は、2020 年度の自主事業ラインアップを発表します。

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、2016 年 1 月にオープンしたロームシアター京都は、早くも 2021 年 1 月に開館 5 周年を迎えます。そこで 2021 年 1 月～3 月の期間は「ロームシアター京都開館 5 周年記念事業」と題し、これまで培った経験とネットワークを総動員して、特色ある事業を展開します。もちろん 1 年間を通じ、これまで同様に洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けするとともに、劇場の財産となる作品のプロデュースや、次代を担う芸術家の育成にも引き続き取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代やバックグラウンドの違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会いを生み出します。

日常的に劇場へ人々が集うとはどういうことでしょうか？その姿を目指してオープンに漕ぎつけ、実際に日々多くの方にお越しいただき、現実のものとなった今、その意味について改めて考えるときに来ているように思います。

ロームシアター京都は施設としてだけでなく、内容としても開かれた場でありたいと考えてきました。内容として開かれているというのは、様々な興味・関心からアクセス可能だということです。あるいは、大きな声、多数派の声だけではなく、そうではない声にも耳を傾け、拾い上げていかななくてはならないということです。そうすることで、全ての人にとって思わぬ出会いのきっかけを用意することができるからです。そんな新たな出会いが、新たな対話を生み出していく…。ロームシアター京都で生まれた営みが蓄積され、そこに人々がさらに引き寄せられる。そうして日常的かつ継続的にここに足を運び、関心を寄せてもらえるようなサイクルは徐々に生まれ始めています。

次の 5 年、そして 10 年を想像したとき、このサイクルが外へ広がっていくことを夢見ます。ロームシアター京都を訪れた人、関わった人が別のフィールドに移ったとき、ここで得た経験が作用し、何か新しい気づきや変化が促されるとしたら…と考えるのです。そのようにして、じわじわと「劇場」の何かが世の中に波及していくとすれば、それこそが「劇場文化」だと言えるのではないのでしょうか。

現在[ロームシアター京都の人事に関する事案](#)で一部報道もなされており、お問い合わせもいただき、多くの方々にご心配をおかけしています。それに伴い、2020 年度の自主事業にご参加いただく予定のアーティストや関係者の皆さんの中にも、留保の意思や疑義を持つ方々などがおられ、本日（2020 年 2 月 19 日）時点で発表できる情報が不完全であり、今後変更が生じる可能性があることをお伝えしなければなりません。参加アーティストのご意向を踏まえ、条件付きで本日公開する事業については、以下のように状況をご説明いたします。

誰もが気持ちよく劇場へ足を運べるように、できることから進めて参りますので、是非 2020 年度の自主事業に引き続きご関心をお寄せいただければ幸いです。

松田正隆作・演出「シーサイドタウン」…ロームシアター京都の人事の件で懸念があり、その解決が見られない場合に延期・辞退の可能性がある。

舞台芸術としての伝統芸能 vol.4「雅楽」における Noism の出演…開館 5 周年記念事業にあたる本公演は、2019 年秋よりロームシアター京都管理課事業担当と、りゅーとぴあとの協働で企画していたものである。よって、ロームシアター京都の人事体制の変化によって、企画の趣旨や内容に変更は生じないことを前提とする。

「劇場の学校のプロジェクト」演劇コース 講師：岡田利規…ロームシアター京都の人事の件で懸念があり、その解決が見られない場合に辞退の可能性がある。

【ロームシアター京都開館5周年記念事業】

2016年1月10日にリニューアルオープンしたロームシアター京都（京都会館）は、2021年1月に開館5周年を迎えます。そこで、2021年1月～3月に実施される自主事業を「開館5周年記念事業」と銘打ち、これまでご支援・ご協力いただいた市民の皆様への感謝を込めて、オリジナリティある事業を実施します。

<対象事業>

- ▶ 2021年1月10日（日）シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.4「雅楽」★
- ▶ 2021年1月17日（日）京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」★
- ▶ 2021年1月24日（日）第354回市民寄席
- ▶ 2021年1月下旬 レパートリーの創造 松田正隆作・演出『シーサイドタウン』
- ▶ 2021年3月下旬 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX G. プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」
- ▶ 2021年3月28日（日）ハンプルク・バレエ団「ベートーヴェン・プロジェクト」★

★ロームシアター京都5周年記念セット券対象事業

【セット券について】

2020年度より、ロームシアター京都主催演目のセット券をご用意いたします。
より気軽に、お得にロームシアター京都のラインアップをお楽しみいただける機会を提供します。

▶ コンテンポラリーダンス2演目セット券…通常価格9,000円を7,000円でご覧いただけます！

対象公演：名和晃平×ダミアン・ジャレ『PLANET<wanderer>』（P.7）、フランソワ・シェニヨール&ニノ・レーネ「不確かなロマンス -もう一人のオーランドー」（P.8）

▶ ロームシアター京都5周年記念セット券（料金未定）

対象公演：ハンプルク・バレエ団「ベートーヴェン・プロジェクト」（P.9）、シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.4「雅楽」（P.12）、京都市交響楽団×石橋義正 パフォーマティブコンサート「火の鳥」（P.14）

市民寄席 主催

会場：サウスホール

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。

幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。

また第354回はロームシアター京都開館5周年記念事業として、祝いの口上を含むより華やかな番組をお贈りする予定です。



口上(撮影:佐々木卓男)

第350回

日程：5月19日(火) 19:00 開演

[番組]

「大安売り」月亭遊真

「新まんじゅうこわい」笑福亭 岐代松

「大血脈」桂 阿か枝

「猫の忠信」桂 米團治

第351回 日程：7月21日(火) 19:00 開演

第352回 日程：9月26日(土) 13:30 開演

第353回 日程：11月24日(火) 19:00 開演

第354回 日程：2021年1月24日(日) 13:30 開演*

*ロームシアター京都開館5周年記念事業

チケット情報

全席指定

第350回、第351回、第353回：前売1,800円 当日2,000円 ユース(25歳以下)1,500円

第352回、第354回：前売2,300円 当日2,500円 ユース(25歳以下)1,500円

年間席札8,000円(完売)

[第350回：3月20日(金・祝)一般発売開始]

主催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

ぐうたららばい vol.2 『海底歩行者』 共催

日程：5月23日(土)・24日(日) 両日 15:00 開演

会場：ノースホール



ぐうたららばい vol.1 『観光裸』より(於：元・立誠小学校)

糸井幸之介の個人ユニットによる2作目は、
海底を歩いているような夫婦の心を描く二人芝居。

ロームシアター京都のレパートリー作品・木ノ下歌舞伎『心中天の網島』『糸井版 摂州合邦辻』の演出も担う気鋭の作家・演出家糸井幸之介(FUKAIPRODUCE 羽衣)の個人ユニットが2012年以来、2度目の京都公演を行います。実力俳優を揃えた“大人な”二人芝居にご期待ください。

作・演出・音楽：糸井幸之介

出演：伊東沙保、キムユス(FUKAIPRODUCE 羽衣)



糸井幸之介 Yukinosuke Itoi

1977年東京生まれ。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE 羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙一ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”2008年度舞台芸術部門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第22回公演『瞬間光年』(2017年上演)にて第62回岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。公益財団法人セゾン文化財団シニア・フェロー。木ノ下歌舞伎では、2015年『心中天の網島』初演、ロームシアター京都レパートリーの創造として、17年『心中天の網島—2017リクリエーション版—』、18年『糸井版 摂州合邦辻』で演出・音楽を務めた。

チケット情報

全席自由 一般 3,000円、ユース(25歳以下)2,000円

[2月22日(土)一般発売開始]

主催：ぐうたららばい、合同会社10月17日

共催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

能の世界へおこしやす 主催
～京都薪能鑑賞のための公開講座～

日程：6月1日(月)・2日(火) 両日 14:00 開演
会場：メインホール



京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。

出演：京都薪能出演能楽師

チケット情報

全席自由 料金：無料／京都薪能チケットを持参の場合は申込不要、当該公演のみ参加の場合は要事前申込(4月10日(金)～5月26日(火)まで、京都いつでもコール(661-3755)にて受付)

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

第71回京都薪能 共催

日程：6月1日(月)・2日(火) 両日 18:00 開演
会場：平安神宮(雨天時：メインホール)



6月1日(月)
観世流能「竹生島」
観世流能「葵上」
大蔵流狂言「水掛髻」
金剛流能「土蜘蛛」

6月2日(火)
観世流能「白鬚」
金剛流能「松風」
大蔵流狂言「神鳴」
観世流能「土蜘蛛」

チケット情報

全席自由 前売券 4,000円 ほか [4月11日(土)一般発売開始]

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会

共催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

能楽チャリティ公演 共催
～被災地復興、京都からの祈り～

日程：8月20日(木)
第1部 10:30 開演(10:00 開場)
第2部 18:30 開演(18:00 開場)
会場：サウスホール

被災地の復興を支援するため、京都在籍の能楽師有志による能楽チャリティ公演を開催します。



【第1部】
能「羽衣」 「シテ 片山九郎右衛門」
狂言「鬼瓦」 「シテ 茂山千五郎」
能「項羽」 「シテ 河村和貴」

【第2部】
能「清経 替之型」 「シテ 田茂井廣道」
狂言「柑子」 「シテ 茂山逸平」
能「鶴 白頭」 「シテ 橋本光史」

チケット情報

全席自由 1,500円
[6月1日(月)一般発売開始]

主催：京都在籍能楽師有志

共催：京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、国際交流基金京都支部

パルコ・プロデュース 2020“ねずみの三銃士” 共催
第4回企画公演「獣道一直線!!!」日程：11月19日（木）～23日（月・祝）
会場：メインホール

生瀬勝久・池田成志・古田新太による企画に宮藤官九郎、河原雅彦が加わった演劇シリーズ“ねずみの三銃士”、ついにロームシアター京都に見参！

名優・生瀬勝久、池田成志、古田新太が「今、一番やりたい芝居を上演したい」と企画した“ねずみの三銃士”に人気脚本家の宮藤官九郎、演出家の河原雅彦が加勢し、演劇としてシリーズ化したプロジェクト。6年ぶりにがっぷり組んでのシリーズ最新作となる「獣道一直線!!!」は前3作同様に、ねずみの三銃士のネタをベースに、宮藤官九郎が新作を書き下ろし、お楽しみのゲスト俳優を迎え、河原雅彦が演出します。

作：宮藤官九郎
演出：河原雅彦
出演：生瀬勝久、池田成志、古田新太 他

ねずみの三銃士シリーズとは？

“ねずみの三銃士”こと生瀬勝久・池田成志・古田新太が「今、一番やりたい芝居を上演したい」と企画。この“ねずみの三銃士”に人気脚本家の宮藤官九郎、演出家の河原雅彦が加勢し、演劇としてシリーズ化した。第1回企画公演「鈍獣」（2004年）では宮藤官九郎が第49回岸田國士戯曲賞を受賞、のちに映画化もされ話題となった。さらに「印獣」（2009年）、「万獣こわい」（2014年）を上演し、「万獣こわい」にて第22回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞するなど、演劇史に残る話題作を上演してきた。

チケット情報

調整中

企画：ねずみの三銃士

プロデュース：株式会社パルコ 主催：サンライズプロモーション大阪 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

レパトリーの創造
松田正隆作・演出『シーサイドタウン』

主催

日程：2021年1月下旬
会場：ノースホール

ロームシアター京都開館5周年記念事業

現代演劇のキーパーソン、松田正隆によるレパトリー作品。出身地・長崎をめぐる物語を創作します。

次代を超えて未永く上演される劇場のレパトリー演目を製作することを念頭に、2017年から継続して取り組むプロジェクト「レパトリーの創造」。第四弾は、長らく京都を拠点に活動してきた劇作家・演出家の松田正隆氏に、ロームシアター京都の新たなレパトリー作品を委嘱します。

自身が代表を務めるマレビトの会では、新しい演劇のつくり方を探求し、近年は形式としても実験性の強い作品を発表してきた同氏が、今回は自身の出身地である長崎を題材に、満を持して新作戯曲を書き下ろします。また後進育成、若い世代との共同作業にも積極的に取り組む松田との協働を通して、オーディションの実施など新たな才能との出会いを生み出していきます。

また、創作のプロセスを随時公開し、作品が出来ていく過程も共有することで、劇場で作品を創ることの意味や魅力を伝えていきます。

作・演出：松田正隆（劇作家・演出家・マレビトの会代表）

あらすじ

この国の西の果て、海辺の町（N市）。一軒の空き家に一人の男（シンジ）が住みはじめる。シンジは東京で職をなくし行き場を失い、故郷に帰ってきた。荒廃していく地方の町で、地縁と血縁が重くのしかかり、人と人の関係は変わらない。シンジもまた、その関係性に戻っただけのような生活を送る。けれども、「何かの兆し」は常に現れ、人々はそれを感じ取っていく。

**松田正隆 Masataka Matsuda**

劇作家・演出家・マレビトの会代表

1962年、長崎県生まれ。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞、97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞、99年『夏の砂の上』で読売文学賞を受賞。2003年「マレビトの会」を結成。主な作品にフェスティバル・トーキョー2018参加作品『福島を上演する』など。2012年より立教大学現代心理学部映像身体学科教授。2019年ロームシアター京都自主事業「劇場の学校プロジェクト」演劇コース講師も務める。

レパトリーの創造について

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、劇場のレパトリー演目として時代を超えて未永く上演されることを念頭に、公立劇場が主体的に作品製作に取り組む事業です。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。

チケット情報

一般 3,500円、ユース（25歳以下）2,000円、高校生以下 1,000円
[9月19日（土）一般発売開始]

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

名和晃平×ダミアン・ジャレ 『PLANET<wanderer>』

主催

 日程：11月18日(水)、19日(木)
 会場：サウスホール


© Yoshikazu Inoue - Sandwich

と「^{たかあまがほら}高天原(神の住処)」の二つの世界を舞台としていたのに対し、『PLANET<wanderer>』では、高天原と黄泉の国の間にあるとされる「^{あしはらのなかつくに}葦原中国」という、われわれ人間が住むとされる地上世界を舞台とします。生者と死者の境界線で、人間の身体と、宇宙世界の構成要素や重力の不可分な関係を表現する—そこに日本庭園の現代的解釈などが混ざり合うという、日本の彫刻家と欧州の振付家の共同作業ならではの唯一無二の世界観を提示します。

振付：ダミアン・ジャレ 舞台美術：名和晃平

京都発の国際的彫刻家 名和晃平と、世界で脚光を浴びる振付家 ダミアン・ジャレによる、『VESSEL』に続くコラボレーション作品。

2016年秋にロームシアター京都で世界初演を迎え、その後も世界中で再演を重ねている『VESSEL』に続く名和晃平×ダミアン・ジャレの異分野コラボレーション作品を、ふたたびロームシアター京都にて日本初演します。人間的/非人間的、固体/液体、彫刻/ダンスという変形し続けるもののアンビバレンスを表現した前作『VESSEL』と、今作『PLANET<wanderer>』は二連祭壇画のように対をなすものとして位置づけられる作品です。

『VESSEL』では『古事記』における「黄泉の国(死者の世界)」

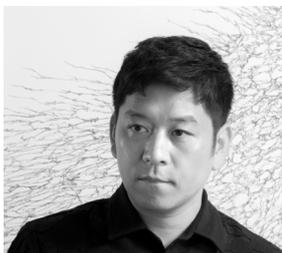


© Koen Broos

ダミアン・ジャレ Damien Jalet

振付家

ダンスをはじめ、彫刻家のアントニー・ゴームリーやミュージシャン、振付師、映画監督、デザイナーらと作品の合同制作をするほか、オペラや音楽ビデオの振付を手がけ、その活動は多岐にわたる。2013年パリ国立オペラにおいて、シディ・ラルビ・シェルカウイ、マリーナ・アブラモヴィッチと共同創作した『Boléro』を初演、好評を博し、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ工章を受章。近作として、ジム・ホッジズらとコラボレーションした『THR(O)UGH』(2015)、『BABEL 7.16』(2016、「アヴィニョン演劇祭 2016」)などがある。2017年には、イギリスのナショナル・ユース・ダンス・カンパニーのアーティスティックディレクターに任命されている。パリ国立シャイヨー劇場のアソシエイト・アーティスト。



© Nobutada Omote - Sandwich

名和晃平 Kohei Nawa

彫刻家

1975年大阪府生まれ。京都を拠点に活動。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授。1998年京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻を卒業。2000年同大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。2003年同大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。2011年東京都現代美術館で個展「名和晃平-シンセシス」開催。ビーズやプリズム、発泡ポリウレタン、シリコンオイルなどの現代的な素材を用いて、造形の新たな可能性を切り拓く。2009年より京都にて、建築家、デザイナーなどのクリエイターと、横断的な創造活動を行うプラットフォーム「SANDWICH」のディレクターをつとめる。

チケット情報

全席指定

一般 5,000円、ユース(25歳以下) 3,000円、高校生以下 1,000円

[7月18日(土)一般発売開始]

★コンテンポラリーダンス2演目セット券対象公演

製作：パリ国立シャイヨー劇場(フランス)

共同製作：ロームシアター京都、東京芸術劇場

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

協力：アンスティチュ・フランセ、京都芸術センター

「フランソワ・シェニヨー&ニノ・レーネ
『不確かなロマンス -もう一人のオーランドー』」

主催

日程：12月5日(土) 19:00 開演
6日(日) 15:00 開演
会場：サウスホール



©Nino Laisné

スペイン音楽・舞踊の伝統を、ジェンダーを超えた独舞・独唱でたどる旅。
世界から熱視線を集める新時代の振付家による、待望の来日公演！

KYOTO EXPERIMENT2018の公演も記憶に新しいフランスの俊英振付家・ダンサー、フランソワ・シェニヨーが3度目の来日を果たします。今作は、スペイン音楽・舞踊の伝統に現代のジェンダー観を重ね合わせた芸術作品として2017年に初演され、世界各地で称賛された話題作。シェニヨーとアーティスト ニノ・レーネが共同で構想し、スペインの音楽と舞踊の歴史を参照しながら、トランスジェンダーの青年貴族が主人公のヴァージニア・ウルフの小説『オーランドー』に着想を得て、シェニヨーが“もうひとりのオーランドー”となり、性を超越し、外見とアイデンティティを変えながら見事なソロダンスと歌唱を繰り広げます。テオルボ、バンドネオン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、パーカッション、パロックギターの音色に乗せて、シェニヨー自身が歴史／芸術／社会のごとく絶え間なく変化し続ける圧巻の舞台です。

音楽デザイン・音楽監督・演出：ニノ・レーネ コンセプト・振付：フランソワ・シェニヨー ダンス・歌唱：フランソワ・シェニヨー



©Laurent Poleo Garnier

フランソワ・シェニヨー François Chaignaud

振付家

フランス・レンヌ生まれ。6歳からダンスをはじめ、2003年パリ国立高等音楽・舞踊学校卒業。その後、ボリス・シャルマツツ、エマニュエル・ユイン、アラン・パファード、ジル・ジョバンといった多くの振付家やダンサーとコラボレーションを展開。『不確かなロマンス -もう一人のオーランドー』(2017年)のような官能的かつ崇高な作品で、ダンスにおける肉体的な厳密さ、歌の何かを喚起する力、さらには、歴史的な言及の間に立ち上がる空間において、身体の可能性を追求してきた。2005年以来、セシリア・ベンゴレアと共にカンパニー Vlovajob Pru を結成し、『TWARK』、『DUB LOVE』などを世界各国で発表し、高い評価を得ている。また彼らは、リヨン・オペラ・バレエ、ロレーヌバレエ、ヴッパタール舞踊団など欧州の重要なダンスカンパニーに作品を提供している。



©Magali Pomier

ニノ・レーネ Nino Laisné

アーティスト

フランス・ボルドーのÉcole Supérieure des Beaux-Arts de Bordeauxでビデオと写真を専攻し、2009年に卒業。並行して、南アメリカの伝統曲を中心としたギターの演奏も学び、現代美術、音楽そして映画を組み合わせた作品を創作することとなる。彼の作品はポルトガル、ドイツ、スイス、エジプト、中国、アルゼンチンといった国々でも発表され、レジデンスによる新作制作の委嘱も定期的に受けている。また、最近のビデオ・プロジェクトは、マルセイユ国際ドキュメンタリー映画祭(フランス)、香港のPapay Gyro Nights Art Festival、トルーカ国際映画祭(メキシコ)など、各地の映画館やフェスティバルで上映されるなど、注目を集めている。マドリッドのアカデミー・ド・フランスのメンバーであり、カサ・デ・ヴェラスケスのレジデント・アーティスト。

チケット情報

全席指定

一般 4,000円、ユース(25歳以下) 2,500円、18歳以下 1,000円 [7月18日(土) 一般発売開始]

★コンテンポラリーダンス2演目セット券対象公演

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 共同招聘：彩の国さいたま芸術劇場、北九州芸術劇場
助成：一般財団法人地域創造、アンスティチュ・フランセ パリ本部

「ハンブルク・バレエ団 「ベートーヴェン・プロジェクト」

主催

日程：2021年3月28日（日）14:00 開演
会場：メインホール

ロームシアター京都開館5周年記念事業



©Kiran West

2020年に生誕250年を迎えたベートーヴェンの楽曲と心象を描く 京都だけで特別に上演される日本初演のプロジェクト

緻密な演出と劇的な仕掛けによって人間を描き出し、あるいは鋭い美意識と解釈をもって音楽の中に豊かな感情世界を見出し、みせるジョン・ノイマイヤー。2015年に第31回「京都賞」（思想・芸術部門）を受賞したことから、京都との縁が生まれ、2018年2月にはガラ公演「ジョン・ノイマイヤーの世界」の上演が、ロームシアター京都で実現しました。今回上演するのは、2018年に世界初演されたばかりの「ベートーヴェン・プロジェクト」の日本初演。2021年の来日公演では、京都だけで特別に上演される演目です。ベートーヴェンの音楽の世界を探索するノイマイヤーの長年の想いを実現したプロジェクトをもって、再び京都に登場します。

振付・演出：ジョン・ノイマイヤー

出演：ハンブルク・バレエ団

演奏：大阪フィルハーモニー交響楽団



© Kiran West

ジョン・ノイマイヤー John Neumeier

ハンブルク・バレエ団芸術監督、主任振付家

1942年、米国ウィスコンシン州ミルウォーキー生まれ。生地でバレエを始め、その後シカゴで学ぶとともに、ミルウォーキーのマルケット大学に進学、ここで最初の振付作品を創作した。その後さらにコペンハーゲンやロンドンの英国ロイヤル・バレエ学校でバレエを学び、1963年にシュツットガルト・バレエ団に入団。ソリストとして活躍するとともに、振付を続けた。1969年、フランクフルト・バレエ団芸術監督に就任。1973年、ハンブルク・バレエ団芸術監督、主任振付家に就任。ハンブルク・バレエ団はドイツをリードするカンパニーに成長し、国際的な評価を獲得。振付家としては、現代的でドラマティックな作品を追求するいっぽうで、バレエの伝統を守り続けている。物語バレエの新たなヴァージョンとともにシンフォニック・バレエも、グスタフ・マーラーの音楽から、宗教曲にいたるまで幅広く手がけている。近年のハンブルク・バレエ団での初演作品に、2013年の『クリスマス・オラトリオⅠ-Ⅵ』、2014年の『タチヤーナ』、2015年の『パール・ギュント』『ドゥーゼ』がある。

ダンス・マガジン賞を受賞（1983）、ドイツ連邦共和国功労勲章、フランス芸術文化勲章シュヴァリエ、レジオンドヌール勲章シュヴァリエを受章。2006年にはニジンスキー賞、2007年にヘルベルト・フォン・カラヤン音楽賞、2008年にドイツ・ダンス賞（ドイツ・ダンス職業協会25周年記念特別賞）を受賞。2007年にハンブルク名誉市民、2012年11月にはロシア連邦友好勲章を授与される。2015年、稲盛財団より京都賞（思想・芸術部門）を授与された。2006年2月には舞踊とバレエ関連のノイマイヤーのコレクションを保持、公開する目的でノイマイヤー財団を創設。ハンブルク市のためにノイマイヤーのレパトリーとその関連素材の維持を行う。



©Kiran West

ハンブルク・バレエ団 Hamburg Ballet

ジョン・ノイマイヤーに率いられたハンブルク・バレエ団の名声は、本拠地ハンブルクを越えて世界にとどろいている。幾多の海外公演を通して国際的に知られる存在となり、ドイツを代表する文化大使の役割を果たしてきた。バレエ団の中核を担うのは、1973年に芸術監督および主任振付家に就任したノイマイヤーだ。彼は伝統的な古典バレエと現代的な表現を融合させて独自の振付言語を構築した、卓越した手腕の持ち主である。ノイマイヤーの発案で1973年に始まったワークショップとレクチャー・デモンストレーションも、ハンブルク・バレエ団の伝統の一翼をになっている。現在のハンブルク・バレエ団はハンブルク国立歌劇場で公演を行っているが、1989年以来、バレエ団が日々の創作の場としているのは、ハンブルク近郊に位置する「バレエ・センター」である。ドイツの著名な建築家フリッツ・シューマッハー（1869～1947）が晩年に設計した建物を改装し、バレエ団の稽古場に加えて、附属バレエ学校と在校生のための寮が併設されている。1978年に開校した附属バレエ学校は、若年の初心者向けプログラムとプロダンサーを養成する8段階のクラスおよび、次世代のプロダンサーを訓練するシアター・プログラムと銘打たれた2年課程を有する。バレエ・センターは、2011年にジョン・ノイマイヤーによって創設されたナショナル・ユース・バレエの拠点にもなっている。

チケット情報

全席指定 料金未定

[2020年9月発売開始予定]

★ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2020
モーツァルト：歌劇「魔笛」

主催

日程：10月27日(火)
28日(水) 両日 13:00 開演
会場：メインホール



撮影者：寺司正彦 提供：新国立劇場

ウィリアム・ケントリッジ演出「魔笛」を2018年に続き上演！

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」の関西公演は2008年より始まり、今年で13回目を迎えます。今年の公演は、2018年に続き『魔笛』を上演します。“ジングシュピール”（歌芝居）として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲や、夜の女王の有名なアリアなど、聴きどころが満載です。ウィリアム・ケントリッジ演出のこのプロダクションは、ケントリッジならではの人間哲学に満ち、ビジュアルアートとしての迫力も相まって、観客に多くの問いを投げかけます。ケントリッジは日本で初の大規模展覧会（京都国立近代美術館）、2010年（第26回）京都賞受賞など京都の地と縁が深く、2018年の上演でも大きな反響を呼びました。

演目：モーツァルト作曲：歌劇「魔笛」【全2幕】
＜原語上演／字幕付＞

指揮：園田隆一郎
演出：ウィリアム・ケントリッジ
美術：ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
衣裳：グレッタ・ゴアリス
照明：ジェニファー・ティプトン

合唱：新国立劇場合唱団
管弦楽：京都市交響楽団

ザラストロ：金子 宏
タミーノ：鈴木 准
弁者・僧侶Ⅰ・武士Ⅱ：町 英和
僧侶Ⅱ・武士Ⅰ：秋谷直之
夜の女王：安井陽子
パミーナ：馬原裕子
侍女Ⅰ：増田のり子
侍女Ⅱ：小泉詠子
侍女Ⅲ：山下牧子
パパゲーナ：九嶋香奈枝
パパゲーノ：近藤 圭
モノスタトス：升島唯博

チケット情報

全席指定
高校生以下 2,200 円、一般 4,400 円
※残席がある場合に限り、一般にもチケットを販売いたします

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、新国立劇場
協賛：ローム株式会社
助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 Vol.4 「雅楽」

主催

日程：2021年1月10日(日) 14:00 開演
会場：メインホール

ロームシアター京都開館5周年記念事業

日本の伝統音楽“雅楽”と現代舞踊が会い、伝統を更新する。
開館5周年を寿ぐ、京都ならではの華やかなコラボレーション！

ロームシアター京都の開館5周年記念日を華やかに彩るスペシャルなコラボレーション公演。2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」第4弾です。古典作品はもちろん、現代作品の演奏にも積極的に取り組む雅楽演奏団体・伶楽舎に、りゅーとびあ専属舞踊団 Noism Company Niigata とその芸術監督である金森穰氏をコラボレーターに迎え、新しい“雅楽”のかたちを探ります。伶楽舎による雅楽演奏、Noism0と伶楽舎によるコラボレーションを予定。それは「雅楽」の新たな魅力を引き出し、京都らしい「温故知新」を体現する舞台となるはずです。

演奏：伶楽舎
演出振付：金森 穰
出演：Noism0



©T.Tairadate

伶楽舎 Reigakusha

雅楽演奏グループ。1985年に芝祐靖が創立。発足以来、現行の雅楽古典曲だけでなく、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組む。これまでに湯浅譲二、池辺晋一郎、北爪道夫、細川俊夫、猿谷俊郎、伊左治直、山根明季子などに新作を委嘱。また武満徹「秋庭歌一具」は発足当初より重要なレパートリーの一つで、国内外で再演を重ねる。CD「秋庭歌一具」が平成14年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。2002年中島健蔵音楽賞特別賞受賞。「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹 秋庭歌一具」で第16回(2016年度)佐治敬三賞を受賞。他に、解説や体験を交えた親しみやすいコンサートや、文化庁「文化芸術による子供の育成事業」の学校公演など、雅楽への理解と普及にも努めている。これまでダンサーとは「秋庭歌一具」(2016年、勅使川原三郎)、権代敦彦「彼岸の時間」、猿谷紀郎「綸綬」(2018年森山開次)でコラボレーションを行っている。



撮影：篠山紀信

金森 穰 Jo Kanamori

演出振付家、舞踊家

りゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 舞踊部門芸術監督 / Noism 芸術監督。

17歳で単身渡欧、モーリス・ベジャール等に師事。ルードラ・ベジャール・ローザンヌ在学中から創作を始め、NDT2在籍中に20歳で演出振付家デビュー。10年間欧州の舞踊団で舞踊家、演出振付家として活躍したのち帰国。03年、初のセルフ・プロデュース公演『no・mad・ic project - 7 fragments in memory』で朝日舞台芸術賞を受賞し、一躍注目を集める。04年4月、りゅーとびあ舞踊部門芸術監督に就任し、劇場専属舞踊団 Noism を立ち上げる。海外での豊富な経験を活かし次々に打ち出す作品と革新的な創造性に満ちたカンパニー活動は高い評価を得ており、サイトウ・キネン・フェスティバル松本での小澤征爾指揮によるオペラの演出振付を行う等、幅広く活動している。平成19年度芸術選奨文部科学大臣賞、平成20年度新潟日報文化賞、第60回毎日芸術賞ほか受賞歴多数。



Noism0 『鏡の中の鏡』
撮影：篠山紀信

Noism

Noism Company Niigata (ノイズム・カンパニー・ニイガタ)

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する、日本初の公共劇場専属舞踊団。芸術監督は金森穰。プロフェッショナル選抜メンバーによる Noism0 (ノイズムゼロ)、プロフェッショナルカンパニー Noism1 (ノイズムワン)、研修生カンパニー Noism2 (ノイズムツー) の3つの集団があり、2004年の設立以来、国内・世界各地からオーディションで選ばれた舞踊家が新潟に移住し、年間を通して活動している。Noism1 はりゅーとぴあで創った作品を国内外で上演し、新潟から世界に向けてグローバルに活動。Noism2 はプロをめざす若手舞踊家が所属し、劇場での公演の他に、新潟市内で開催されるイベントや学校への出前公演等、地域に根ざした活動を続けている。Noism0 は、舞踊に限らず、年齢と経験を積み重ねた芸術家だからこそ生み出せる表現を、新潟から世界に向けて発信していく。

Noism の由来は、「no-ism = 無主義」。特定の主義を持たず、歴史上蓄積されてきた様々な身体知を用いて、あらゆる ism を再検証することで、今この時代に有用な新しい形に置き換え、現代人としての身体表現を後世に伝えていこうとしている。

チケット情報

全席指定

S席 5,000円、A席 3,000円 (予定)

★ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演

※5周年記念企画として、若年層の鑑賞機会の拡大を目指し、ユース(25歳以下)の招待を予定

[2020年9月発売開始予定]

主催：京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

特別協賛：公益財団法人 稲盛財団

京都市交響楽団×石橋義正 主催 パフォーマティブコンサート「火の鳥」

日程：2021年1月17日（日）14:00 開演
会場：メインホール

ロームシアター京都開館5周年記念事業

京都が世界に誇る才能が結集！

ここでしか体験できない、パフォーマティブなオーケストラコンサート

2021年は、イーゴリー・ストラヴィンスキーの没後50年。彼が活躍した時代のロシアにおいて、新しい舞台芸術の潮流が生まれました。それは、20世紀初頭に産声をあげ、現代の舞台芸術界のみならず、絵画や音楽、ファッションなどあらゆる芸術運動に影響を与えたバレエ団「バレエ・リュス」です。その活動は現代においてなお、伝説的に語り継がれており、現代音楽の祖とも言われるエリック・サティやストラヴィンスキーなど、当時最先端の才能とコラボレーションを行ない、総合舞台芸術としてのバレエを築き上げていきました。そのようなバレエ・リュスのスピリットにインスパイアされ、音楽・舞踊・美術を融合した“パフォーマティブコンサート”を、京都が世界に誇る才能を結集させて生み出します。

指揮：園田隆一郎

演出：石橋義正

管弦楽：京都市交響楽団

歌：森谷真理

< 予定曲目 >

「花火」(ストラヴィンスキー)

「牧神の午後への前奏曲」(ドビュッシー)

歌曲集「シェエラザード」(ラヴェル)

「火の鳥」(ストラヴィンスキー) ほか



©Fabio Parezan

園田隆一郎 Ryuichiro Sonoda

指揮者

2006年、シエナのキジアーナ夏季音楽週間『トスカ』を指揮してデビュー。翌年、藤原歌劇団『ラ・ボエーム』を指揮して日本デビューを果たす。同年夏にはペーザロのロッシーニ・オペラ・フェスティバル『ランスへの旅』の他、フィレンツェのトスカーナ管弦楽団との演奏会、カタニアのベッリーニ大劇場管弦楽団の演奏会を指揮した。その後国内外のオペラへの出演、オーケストラとの共演を重ね、オペラと交響曲の両分野で活躍する指揮者の一人である。2017年度第16回斎藤秀雄メモリアル基金賞受賞。藤沢市民オペラ芸術監督。



石橋義正 Yoshimasa Ishibashi

映像作家／演出家

1968年京都生まれ。京都市立芸術大学大学院に在学中、英国王立芸術大学（RCA）映画科に交換留学。2000年に異色のTV番組『パミリオン・プレジャー・ナイト』を製作・監督。マネキンドラマ『オー！マイキー』がベルリン映画祭に招待されるなど国内外で高い評価を得る。同時にテートモダン、ニューヨーク MoMA など国内外の美術館で映像作品やライブパフォーマンスの発表も行い、2010年に丸亀市猪熊弦一郎現代美術館で大規模な個展を開催。伝統芸能、ダンス、メディアを融合した舞台の制作、長編劇映画『ミロクローゼ（主演：山田孝之）』の製作・監督、PARASOPHIA 京都国際現代芸術祭でのインスタレーション出品、ファッションカンタータの演出など、ジャンルを越えて創作活動を展開する。京都市立芸術大学美術科教授。



© 井上写真事務所 井上嘉和

京都市交響楽団 City of Kyoto Symphony Orchestra

日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。2008年4月第12代常任指揮者に広上淳一が就任。2014年4月から常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに広上淳一、常任首席客演指揮者に高関健、常任客演指揮者に下野竜也が就任。2015年広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアー等を開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年「第37回（2016年度）音楽クリティック・クラブ賞」本賞及び「第29回ミュージック・ペンクラブ音楽賞」クラシック部門「現代音楽部門賞」を受賞。2017年4月から下野竜也を常任首席客演指揮者に据えて広上・高関・下野による3人指揮者体制を確立。2020年4月からは新指揮者体制として、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッドが就任し、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



© 武藤章

森谷真理 Mari Moriya

ソプラノ歌手

武蔵野音楽大学大学院及びマネス音楽院修了。『魔笛』夜の女王でメトロポリタン歌劇場デビュー後、欧米各地の劇場にて出演を重ねている。国内でも、二期会『ばらの騎士』元帥夫人、『蝶々夫人』タイトルロール、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェ、びわ湖ホール『ワルキューレ』ジークリンデ等に出演、いずれも絶賛を博す。「第九」、マーラー「復活」「千人の交響曲」等のソリストとしても活躍。また、19年「天皇陛下御即位を祝う国民祭典」にて国歌独唱を披露する栄誉に浴した。小山評定ふるさと大使。二期会会員。

チケット情報

全席指定

S席 6,000円 A席 4,000円 B席 3,000円 ユース S席（25歳以下）3,000円（予定）

★ロームシアター京都5周年記念セット券対象公演

[2020年9月発売開始予定]

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

| サンガツ 「¿Music?» 共催

日程：2021年2月19日（金）19：30 開演
20日（土）15：30 開演
会場：ノースホールほか



音楽の可能性を問い直し拡張するバンド、 サンガツがロームシアター京都に初登場！

ポスト・ロックを牽引するジム・オルークのプロデュースによりデビューした東京拠点のバンド、サンガツ。音楽の枠にとらわれない、広く音を使った表現を創造することを目指した独自の活動で、静かに注目を集めています。チェルフィッチュなどの演劇カンパニーやダンス・映画への参加など、他ジャンルとのコラボレーションも多数手掛ける彼らがロームシアター京都で行うのは、その日・その場だけのために作曲された新作演目。「遊び」の中から音楽の新しい文法を一つずつ作り直し、有り得べきもう一つの音楽の可能性を提示します。



サンガツ Sangatsu

1997年に東京で結成。ジム・オルークのプロデュースによる『サンガツ』でデビュー。音楽の枠にとらわれない、広く音を使った表現を創造することを目的に設立。演劇・ダンス・映画等、他ジャンルとのコラボレーションも多数。音が鳴らされるための仕組みやルール（プラットフォーム）を作品として提示するプロジェクトの発表、2012年以降の発表作品の今後5年間における著作権放棄など、楽曲とリスナーの関係についてフォーカスした活動が注目を集める。

近年は「遊び」の場が持つ力に注目し、広場で新しい遊びを作るようなやり方で作曲を行っている。ベルリン・北京・ソウル・他海外公演も多数。毎週日曜のリハはかかさず。

メンバー：小泉篤宏（ギター）、小島創太郎（ギター）、千葉広樹（ベース）、宿谷一郎（ドラム）、富樫大樹（ドラム）、田中佑司（ドラム）

チケット情報

前売：3,000円 当日：3,500円

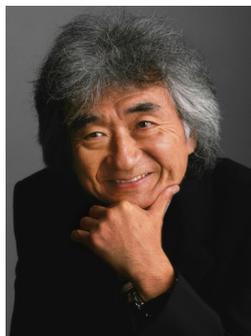
[発売日調整中]

主催：サンガツ 共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIX 主催 G. プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」 ROHM CLASSIC SPECIAL 【全4幕】新制作＜原語上演 / 字幕付＞

日程：2021年3月19日(金)
21日(日)
会場：メインホール

ロームシアター京都開館5周年記念事業



©Shintaro Shiratori



世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本、中国、台湾、韓国などでのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都府内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

音楽監督：小澤征爾 演出：ディヴィッド・ニース 装置・衣裳：ロバート・パージオラ 管弦楽：小澤征爾音楽塾オーケストラ
演目：G. プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」【全4幕】新制作＜原語上演 / 字幕付＞

ラ・ボエーム あらすじ

舞台はパリ。あるアパートの屋根裏部屋で、ボヘミアンと呼ばれる芸術家の卵たち、詩人口ドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コルリーネが貧しいながらも陽気に共同生活をしていました。『ラ・ボエーム』とは、「ボヘミアン」のことです。19世紀初頭のパリに多くいた芸術家の卵たちはみな貧しく、けれども、みな希望に胸あふれ、生き生きと過ごしていました。そんな若者たちの夢と恋と友情を、このオペラは描いています。作曲したプッチーニも20代で故郷ルッカからミラノに出て、苦学に励んでいたことから、このオペラに特別な愛着があったと言われています。有名なのは、口ドルフォとミミが恋に落ちるシーンですが、プッチーニによる、ロマンティックなメロディーが大変魅力的な作品です。

小澤征爾音楽塾

小澤征爾音楽塾は、ローム株式会社の佐藤研一郎社長（当時）と小澤征爾がオペラを通じて若い音楽家を育成することを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクト。恩師カラヤンの教えである「交響曲とオペラは車の両輪のようなもの」を持論とする小澤が「教えること」に生涯を捧げたもう一人の恩師 齋藤秀雄のスピリットを受け継ぎ、若い音楽家たちとともに学ぶ場として開催しています。

毎年、国内外でのオーディションで選ばれたアジア諸国（日本、中国、台湾、韓国）の若い音楽家たちでオーケストラを結成し、小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラメンバーをはじめとする演奏家のもとで指導を受け、分奏や歌手とのリハーサルを重ねながら、世界の歌劇場で活躍するオペラ歌手や演出家と共に高水準のオペラ「小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト」を創り上げます。

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトはこれまでに17回開催され、モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」をはじめ、11のオペラ作品とマーラー：交響曲第2番「復活」を上演しています。

2000年の創立以来、半導体メーカーのローム株式会社（本社：京都市）及び公益財団法人ロームミュージックファンデーションに継続的に支援頂いており、2016年1月にリニューアルオープンしたロームシアター京都を制作拠点とし、京都をはじめ全国で公演を開催しています。

チケット情報

調整中

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
企画・制作：ヴェローザ・ジャパン
共催：公益財団法人ロームミュージックファンデーション
協賛：ローム株式会社

プレイ！シアター in Spring 2020 ステージプログラム

主催

①ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業

『紙のサティさん』アトフリ・シアター from ポーランド

5月5日(火・祝) 11:00、15:00 京都市東部文化会館 創造活動室

5月6日(水・休) 11:00、15:00 京都市右京ふれあい文化会館 創造活動室

②ロームシアター京都 × 京都市文化会館 5 館連携事業

『リトルトップ 〜はじめてのサーカス〜』スターキャッチャーズ/スーパーファン from スコットランド

5月11日(月) 11:00、14:00 京都市西文化会館ウエスティ 創造活動室

5月13日(水) 11:00、14:00 京都市北文化会館 創造活動室

5月14日(木) 11:00、14:00 京都市呉竹文化センター 創造活動室

③『はじめての1歩』ミッドナイトシアターカンパニー from アイスランド

5月10日(日) 11:00、15:00 ロームシアター京都 ノースホール



① Photo : Wojtek Wojcik



② Photo : Jassy Earl



③ Photo : Solla Matt

海外の注目作が京都にやって来る！こどもたちのシアターデビューを創出。

家族や友達と楽しめるロームシアター京都の特別企画「プレイ！シアター」を、ゴールデンウィークの期間中に『プレイ！シアター in Spring 2020』として開催します。ロームシアター京都のみならず、5つの京都市内文化会館で、良質なこども向け作品の上演を行い、こどもたちの「シアターデビュー（初めての劇場体験）」の機会を創出します。上演作品は世界の児童演劇フェスティバルで多数の賞を受賞するなど、世界各地で評判の作品ばかり。文化の多様性に触れることで、こどもたちの創造性を培います。また観劇前後の無料プログラムも実施します。

推奨する年齢：①1～5歳のこどもたちと大人 ②0～1歳半のこどもたちと大人 ③2歳以上のこどもたちと大人

①アトフリ・シアター ATOFRI THEATER

2008年、ポーランドのポツナンで、ベアータ・バプリンスカ、モニカ・カバチンスカ両氏により設立された演劇グループ。1～5歳の乳幼児を対象とした作品の創作を手がける。「音楽」と「ムーブメント」を小さなこども達に作品を届けるための最良の手段と考え、様々な楽器を使った“生の音楽”をインスピレーションの源に、構成にこだわらない、優しく押し付けがましくない作品創りを目指す。主に音楽や歌、色と形と身体の動きで、こどもたちを取り巻く世界をシンプルかつ詩的な手法で表現する。

②スターキャッチャーズ/スーパーファン Starcatchers / SUPERFAN

スターキャッチャーズは、幼年期のこどもに関わる芸術活動を行うスコットランドの全国組織。特に、0歳から5歳までの赤ちゃん、幼児、児童、そしてそのこどもたちを見守る大人のための上演作品の創作、そして創造的活動の調査研究を専門的に行う。

スーパーファンは、エリー・デュポア、キム・ドノホー、ピート・ラノンによるコラボレーション集団。演劇やパフォーマンス・アート、サーカス、振付を融合させ、大人とこどもの観客のための上演作品を創作している。

③ミッドナイトシアターカンパニー Midnight Theatre Company

ミッドナイトシアターカンパニーは、女優で演出家の Agnes Wild、演奏家の Sigrún Harðardóttir、舞台美術家の Eva Björg Harðardóttir によって結成。3名は異なる芸術バックグラウンドを持ち、美術、演劇、音楽が等分の価値をもって融合されているのがカンパニーの大きな特徴であり、2017年にはアイスランドの「最優秀児童演劇」と「最優秀振付」を受賞。アイスランド政府、レイキャビック市、ロータリークラブ、北欧文化基金より助成を受けている。

チケット情報

①、②おとな：1,000円 こども（0歳～18歳）：300円

③おとな：1,800円、こども（0歳～18歳）：500円、こども+おとなペア：2,000円（前売のみ・枚数限定）

[①、②、③すべて 3月15日(日) 一般発売開始]

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市

後援：京都市教育委員会、公益社団法人京都市保育園連盟、公益社団法人京都市私立幼稚園協会 広報・運営協力：人形劇団京芸

第20回アシテジ世界大会／2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル 参加作品



プレイ！シアター in Summer 2020 ステージプログラム
日・チェコ交流 100 周年
『怪傑ゾロ』アルファ人形劇場 from チェコ共和国

主催

日程：8月9日(日) 11:00、15:00 開演
会場：ノースホール

子どもたちの夏休みのために、人形劇王国チェコから、歴史ある人形劇団が来日！

ユネスコの無形文化遺産にも登録されている人形劇王国チェコから、最も歴史のある人形劇団、アルファ人形劇場が来日します。演出家トマシュ・ドボルジャーク監督の最新作である本作は、世界的に著名なメキシコのゾロ伝説を、古典的なマリオネットとマリアッチ（メキシコ民族音楽楽団）形式の楽師による陽気な生演奏でリズムカルかつスピーディー、ユーモラスに描いた作品。ことばに頼らずとも『怪傑ゾロ』の魅力あふれるストーリーがしっかり伝わり、子どもたちの夏休みを豊かに彩ります。



あらすじ

怪傑ゾロは、強さをくじき弱さを助ける、真の紳士。彼が現れた後には、Zの印が刻まれ、これが彼のトレードマークであった。ある日、美しい娘イザベラは軍人から求愛される。さらにイザベラの母親は地主の放蕩息子との結婚を用意する。しかしイザベラは男気溢れる軍人や恥づかしがり屋の放蕩息子よりも、紳士的で強く優しいおたずね者の怪傑ゾロに心惹かれている。そして紆余曲折の果てに明かされる怪傑ゾロの正体は・・・。



アルファ人形劇場 Divadlo Alfa

ユネスコの無形文化遺産にも登録されている人形劇王国、チェコ。なかでもピルゼン市は、人形美術家ヨゼフ・スクバや映像作家イジー・トルンカを輩出し、チェコを代表する人形劇の町として知られています。その伝統を引き継ぐアルファ人形劇場は、旧チェコスロヴァキア内で最も歴史あるプロ人形劇団。チェコの伝統的レパートリーのみならず、プーシキンやシェイクスピアなど他国の作品もレパートリーとして新作創造を続けています。

チケット情報

全席自由 おとな：2,500 円、子ども（18 才以下）：1,000 円、おとな+子どもペア：3,000 円
[5月16日(土)一般発売開始]

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 協力：ブーク人形劇場

プレイ！シアター in Summer 2020
オープンデー

主催

日程：8月15日(土)
16日(日) 両日 10:00～16:00
会場：全館

今年も開催！家族や友達と楽しめる、ロームシアター京都の夏休み特別企画

毎年恒例の大好評イベントを今年も開催します。オーケストラのコンサート、劇場ツアー、子ども向けワークショップ、演奏パフォーマンス、マルシェ…など、“気軽に遊べる劇場”として、子どもから大人まで劇場を満喫できるもりだくさんの2日間。ご家族、お友達を誘ってロームシアター京都におこしください！

参加アーティスト：京都市交響楽団、トナカイサインズ ほか



撮影：山地憲太

チケット情報

無料、予約不要（一部有料、要事前予約）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ROOMシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

主催

日程：①7月10日(金)～12日(日)
②12月第1週
③12月10日(木)～13日(日)
会場：ノースホール

- ①中川裕貴(京都)「アウト、セーフ、フレーム」
- ②シラカン(神奈川)新作『タイトル未定』
- ③スペースノットブランク(東京)新作公演

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！新たな創造支援プログラムの3年目。

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ROOMシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創作支援プログラム“KIPPU”。3年目は、中川裕貴(京都)、シラカン(神奈川)、スペースノットブランク(東京)の3組を採択しました。チェロという楽器の中に潜む「声」を様々な演奏手法によって引き出し、枠組みや境界、フレームの存在/非存在を考えることを「音楽コンサート/ホール」の形式の中で試みる活動を行う中川裕貴。この世界に存在はするけれど目に見えないモノ・コト(例えば四季、死、花粉症)を過剰な見立てや奇抜な美術の中、独特な言い回しの会話を中心に可視化させ、観客に向け表現するシラカン。劇作家、出演者、演出者による三つ巴の対話を研究し、環境や人との関わり合いと自然なコミュニケーションを基に形成される有機的な作品を創作するスペースノットブランク。個性あふれる3団体のフレッシュな感覚によって、ノースホールにどのような空間が立ち上がるのか、ご期待ください。



photo by Takuya Oshima

中川裕貴 Yuki Nakagawa

1986年生まれ。演奏と演出をチェロ/電気/適当な録音を使用して行う。演奏行為とそれによって現れる音のあいだに在る「距離」を測ること、また演奏をしながら自身が「そこ/ここ」でどのように存在するかを問うこと(またそれへの頓智)をテーマとする。矛盾した行為(動きながら自分で自分についての距離を測る)が発する音楽への襲来と、音楽からの襲来(応答)について、演奏という行為を通じ考えている。またソロ活動と並行して(中川裕貴)「バンド」活動や、烏丸ストロークロックを代表とする舞台音楽、その他アーティストとのコラボレーションもいくつか行っている。

『蜜をそ削ぐ』(2019年 ST スポット)
photo takaramahaya

シラカン shirakan

シラカンとは、「ヨーモア」なモチーフと「ひとぼと」がこもごもしている団体。2016年結成。2016年に多摩美術大学の学生を中心に結成。演出家・俳優・劇作家・舞台監督・グラフィックデザイナーが所属し、それぞれの視点から多角的に作品を支え合う。2019年より横浜を拠点にし、「その土地で演劇をすること」を重視し、全国で公演を重ねる。全国学生演劇祭2017にて観客賞・審査員賞・大賞の三冠を達成。同年11月、フェスティバル/トーキョー17「実験と対話の劇場 - 新しい人 / 出来事の演劇 -」に『花擲んでふゆう』で参加。近年の作品に『坦々とおこり』(ツアー公演@北とぴあカナリアホール、@ナンジャーレ、@ST スポット)『蜜をそ削ぐ』(@ST スポット)がある。
※ヨーモアとは、ユーモアの向こう側という意味の造語です。



『ささやかなさ』(2019年) ©Dan Åke Carlsson

スペースノットブランク Spacenotblank

小野彩加と中澤陽が舞台芸術を制作するコレクティブとして2012年に設立。舞台芸術の既成概念に捉われず新しい表現思考や制作手法を開発しながら舞台芸術の在り方と価値を探究している。環境や人との関わり合いと自然なコミュニケーションを基に作品は形成され、作品ごとに異なるアーティストとのコラボレーションを積極的に行なっている。2017年、『ラブ・ダイアログ・ナウ』が第8回せんがわ劇場演劇コンクール グランプリ受賞。2018年、『緑のカラー』が下北ウェーブ2018選出。近年の主な作品に「舞台三部作」として『舞台らしき舞台されど舞台』(2018)、『言葉だけでは満ちたりぬ舞台』(2019)、『すべては原子で満ちている』(2019)、舞台芸術以前のダンスを探究する『フィジカル・カタルシス』(2019)、松原俊太郎との共同制作第一弾『ささやかなさ』(2019)など。

チケット情報

調整中

主催：ROOMシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市
※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ROOMシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター(公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市で開催します。

OKAZAKI PARK STAGE 2020 主催

日程：10月（調整中）
会場：ローム・スクエア（予定）

2019年度に引き続き、ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」での特設ステージを舞台に、多彩なイベントや飲食が楽しめる空間「OKAZAKI PARK STAGE」が登場します。



Photo:Toshiaki Nakatani

チケット情報

無料、予約不要

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

KYOTO EXPERIMENT 主催 京都国際舞台芸術祭 2020

日程：10月10日（土）～11月3日（火・祝）[25日間]
会場：サウスホール、ノースホール、京都芸術センター、
京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO ほか



Photo by Yuki Moriya

KYOTO EXPERIMENT は、2010年より毎年開催している京都発の国際舞台芸術祭。世界各地の「EXPERIMENT=実験」的な舞台作品を中心に紹介し、演劇やダンスだけではなく、音楽、美術などのジャンルを越境した先鋭的な表現が約1ヶ月間、京都を舞台に展開します。

2020年からは、共同ディレクター3名によるプログラムが新たにスタート。既存の形式を飛び越え、舞台芸術の新しい可能性に挑戦する表現に注目します。さらに、観客との多彩な交流プログラムを推進し、フェスティバルが舞台芸術を通じた対話と思考のプラットフォームとなることを目指します。

プログラムの発表は7月を予定！ <https://kyoto-ex.jp>

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会

[京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

ホリデー・パフォーマンス 主催

日程：通年（全3回）
会場：3階共通ロビー ほか

2019年度よりはじまった、音楽を中心としたパフォーマンスを無料でお楽しみいただけるシリーズです。ジャンルにとらわれない多彩な音楽やパフォーマンスを紹介し、日常で気軽にアートに触れる機会を創出します。



Photo:Toshiaki Nakatani

チケット情報

無料、予約不要

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I 地域の課題を考えるプラットフォーム 主催

日程：通年

ロームシアター京都が2017年度から実施しているプロジェクト「地域の課題を考えるプラットフォーム」。劇場が舞台芸術のためだけに存在するのではなく、地域生活に根ざした多様な人々をつなぐハブとしての役割を果たすべく、芸術文化の視点から地域コミュニティの活性化を図ることを目的としています。2019年度から、障害の有無を超えて、誰にでも開かれている劇場とはどういうことか、障害当事者やその関係者とともに問い直す試みをはじめ、引き続き福祉施設等へのヒアリング、勉強会のほか、特定の演目への障害者の鑑賞支援サポートを実施予定です。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

I 劇場の学校プロジェクト 主催

日程：7～9月（調整中）

2019年度より実施している中学1年生～18歳を対象にした「劇場の学校プロジェクト」。国内外の第一線で活動しているアーティストやエンジニアを講師に、「演劇」「舞踊」「メディア・パフォーマンス」の3つのコースを設け、初年度は70名ほどが参加しました。

今年度は、講師の作品とその背景にある考え方に触れながら、実際に身体を動かして、自分の頭で考えて、作品づくりまで体験するカリキュラムを設けます。この先10年・20年を見据えた日本の舞台芸術を担う創造性あふれる人材を育成します。

【講師】

演劇コース 岡田利規（演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰）

舞踊コース 木田真理子（ダンサー）

メディア・パフォーマンスコース 伊藤隆之（YCAM InterLab ディレクター）、石橋義正（映像作家 / 演出家）



©Kikuko Usuyama

岡田利規 Toshiki Okada

演劇作家 / 小説家 / チェルフィッチュ主宰

1973年横浜生まれ、熊本在住。活動は従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。2005年『三月の5日間』で第49回岸田國土戯曲賞を受賞。同年7月『クーラー』でTOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2005 一次代を担う振付家の発掘一 最終選考会に出場。07年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』を新潮社より発表、翌年第二回大江健三郎賞受賞。12年より岸田國土戯曲賞の審査員を務める。13年には初の演劇論集『遊行 変形していくための演劇論』、14年には戯曲集『現在地』を河出書房新社より刊行。16年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレのレパートリー作品演出を4シーズンにわたって務める。18年8月にはタイの小説家、ウティット・ヘームマーンの原作を舞台化した『プラータナー：憑依のポートレート』をバンコクにて発表、12月にフェスティバル・ドートンヌ（パリ）にて上演。



Hironori Tsukue

木田真理子 Mariko Kida

ダンサー

ローザンヌ国際バレエコンクール受賞後、カナダ、スウェーデンでプロダンサーとして活動し、ブノワ賞（ロシア）、レオニード・マシーン賞（イタリア）、文化庁長官表彰（国際芸術部門）など受賞。スウェーデン王立バレエ団での活動後、2016年よりフリーランスに転身し、ピナ・バウシュ・ヴッパタール舞踊団に客演するなど各国で活躍。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科でダンス研究に取り組んでいる。共著に『22世紀の荒川修作+マドリル・ギンズ——天命反転する経験と身体』（フィルムアート社、2019年）がある。



Photo:Gottingham

伊藤隆之 Takayuki Ito

YCAM InterLab ディレクター

大学、専門学校を経て山口情報芸術センター[YCAM]に就職しました。それ以降、アーティストや技術者・研究者の方々と一緒に作品やワークショップを作ることを主な仕事にしてきました。レコーディングやコンサートPAなどの音響エンジニアリングから、ソフトウェアを作ったり、バイオテクノロジーを使ってみたりと、分野を限定せずに活動しています。

石橋義正 Yoshimasa Ishibashi

映像作家 / 演出家

P.14 参照

ロームシアター京都 リサーチプログラム

日程：6月中旬～2021年3月

プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。2020年度の重点リサーチテーマは、「現代における伝統芸能」「子どもと舞台芸術」、「舞台芸術のアーカイヴ」です。

「ロームシアター京都 リサーチプログラム 紀要—2017年度報告書」は[こちら](#)

「ロームシアター京都 リサーチプログラム 紀要—2018年度報告書」は[こちら](#)

リサーチャー募集期間（予定）：2020年3～4月

メンター：吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）、若林朋子（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

機関誌「ASSEMBLY（アセンブリー）」Vol.6、7

年2号発行予定



ロームシアター京都自主事業として2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いまを考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。

VOL.01 [PDFはこちら](#)

VOL.02 [特集] 集まりの現在 [PDFはこちら](#)

VOL.03 [特集] 子ども／子供／コドモを考える [PDFはこちら](#)

VOL.04 [特集] 古典のダイナミズム [PDFはこちら](#)

VOL.05 [特集] 観光と芸術（2020年3月発行予定）

VOL.06 [特集] 記憶／記録／アーカイブ（仮）（2020年9月発行予定）

VOL.07 [特集] 未定（2021年3月発行予定）

「いま」を考えるトークシリーズ Vol.13～16

日程：通年（全4回予定）
会場：3階共通ロビー（予定）

機関誌「ASSEMBLY」と連動したトークシリーズ。多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えていきます。

チケット情報

無料、事前申込優先

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ロームシアター京都 アセンブリープログラムについて

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”＝ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。“アセンブリー”という名称には、京都会館の英語表記「Kyoto Assembly Center」にある、「集会」や「会議」という開館時に込められた思いを引き継ぎつつ、幅広い教養や知識を気軽に得られる大学等の課外授業のイメージを込めています。



アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

【過去開催したアセンブリープログラムの一例】

- ・マルシェ（岡崎いどりマルシェ、京の手づくりマルシェ ほか）
- ・ワークショップ（ストール染め、抹茶を知って楽しむワークショップ、手作りうちわ ワークショップ ほか）
- ・トークイベント
- ・読書会
- ・DJ イベント

ほか